

2017年5月26日

「ベンチ及び観客席（応援者）からの指示は一切禁止」について

普及育成委員会スクール担当競技部会

春季交流大会は、キャプテンを中心に選手の主体性を促すため、5年生・6年生の試合では**ベンチ及び観客席からの指示は一切禁止**とさせていただきます。

但し、ハーフタイム中の建設的な指示は従来通り認めます。

また、応援はこの限りではありません。是非、味方チームのNice Playに対しては称賛の声援をお願いいたします。また、相手チームのNice Playに対しても敬意の声援をお願いいたします。

ラグビーは本来、試合中の判断はゲームキャプテンが行います。

監督・コーチはベンチから今まで教えてきたことを発揮してくれるであろうと信じながらゲームを見届けます。

試合は、練習をしてきたことを発表する場であり、「子どもたちの可能性」「子どもたちのひらめき」を信じ、最高の舞台を提供する場であります。

子どもたちの主体性を暖かく見守り、選手が思う存分プレーを楽しんで、指導者・保護者の方々が観て喜び、全ての人が心から感動する場になってほしいと願っております。

◆タッチライン際の大人たちへ

ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声が問題になっています。現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。子どもたちはボールを持って走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見ています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。それがラグビー精神なのですから。